

支配概念の脆弱性に関する会計理論の研究

Theoretical Studies of Accounting on the Control Concept

齋藤 雅子(SAITO Masako)

本研究の目的は、基準設定に至る議論・コメントレーター等の公表物を中心に「支配概念」の性質と発展過程を考察し、特に、財務諸表利用者の情報ニーズの観点から「支配概念の脆弱性」を補完する追加的要素を明らかにすることである。本研究における「支配概念の脆弱性」に関する理論構築は、財務報告の主体を明確に区分し、現在の経済活動に見合った様々な企業形態を財務報告に含めるための重要な研究と位置づけられる。

研究方法としては、日本基準および国際会計基準のコンバージェンスプロジェクトにおける議論を通じて「支配概念」を比較検討しながら、その性質と発展過程を明らかにした。研究成果は次の2点である。なお、本研究期間は当初2年の予定であったが、2年目の継続申請時に予算が減額されたことを受け研究内容の実施が困難と判断し、研究期間を1年とした。

1. 論文「リポーティング・エンティティの概念形成」『会計』(日本会計研究学会機関誌)第175巻第6号、70-83頁。

本論文では、IASBとFASBの概念フレームワークプロジェクトにおける見解を中心に、リポーティング・エンティティ(reporting entity)の概念形成について考察した。概念形成の動きは、財務報告の対象としてのエンティティを明確化することを目的としている。検討にあたってはIASB、FASBのフレームワークや基準における既存概念と比較検討を行った。

2. 論文「リポーティング・エンティティと連結の関連における支配概念の特性」『経営論集』(大阪産業大学)第10巻第3巻、1-15頁。

本論文の目的は、支配概念の特性をリポーティング・エンティティと連結の関連において考察することにある。検討にあたり、支配をめぐるIFRS/IASの既存概念や理論諸説を整理するとともに、IASBとFASBのフェーズDプロジェクトと連結の各プロジェクトでいう支配を取り上げている。